

杉戸町々々拾遺録

すぎと まちこんじゃくしゅういろく

温古知新

杉戸の歴史をばれ話

第6回

星・航海術 ～スターナビゲーション～

前回お話しした杉戸町内で発見された神津島産黒曜石から少しばかり考察を広げてみます。

旧石器時代、縄文時代の人々が伊豆諸島の神津島まで黒曜石を求めて航海を行っていたことは、黒曜石の科学分析の結果明らかとなっています。この航海は、高度な航海術と自然環境への深い理解、さらには親潮と黒潮という二つの海流が重要な役割を果たしたものと仮説づけることができます。

親潮（千島海流）と黒潮（日本海流）は、日本周辺を流れる大きな海流です。親潮は冷たい海水を北から南へ、黒潮は暖かい海水を南から北へ運びます。この二つの海流は日本の気候に影響を与えるだけでなく、縄文人の航海にも大きな影響を与えたものと考えられます。親潮は冷たく栄養豊富な水運び、豊かな漁場を形成するため、縄文人はこの海流を頼りに航海しながら食料を確保していた可能性があります。また、黒潮は航海に適した穏やかな海域を作り出し、効率的に目的地に到達するために利用されていたと考えられます。

縄文人は星空を観察し、北極星を頼りに方向を定め、天体の動きから季節の変化を読み取っていたと推測することもできます。また、海鳥の飛ぶ方向、陸地の輪郭や波の様子、親潮と黒潮の流れを参考にしながら航海ルートを決めていたのでしょう。船については、丸木舟や筏（いかだ）などが使われていたと考えられますが、詳しい構造や航海技術についてはまだ解明されていない部分が多く残されています。しかし、長距離の航海を成功させるためには、船の安定性や耐久性が求められたことは確かです。

このような航海術はミクロネシアの島々でも見られます。ミクロネシアは太平洋に点在する小さな島々から成る国家で、海洋に関する深い知識と技術が発達しています。ミクロネシアの伝統的な航海術は星の位置と動きを読み取り、方位を特定し、目的地に向かうことが特徴です。また、風向きと波の動きを読み取り、最適な航路を選択する技術も発達しています。

縄文人は、ミクロネシアの人々と同様に星々を観測する道具や、風と波の変化を人間が本来持っている「感覚」をたよりに目的地までの距離を推定する方法を持っていたと推測することができます。もちろんこれらは、近代技術と比べれば稚拙なものであったことは論をまちません。しかしながら、この航海術で島々を往復航海していたことを考えれば驚嘆に値します。これらの技術は世代を超えて継承され、長年の経験に基づく知識の結晶であったともいえるでしょう。

（社会教育課 町史・文化財担当編）

人気コーナー

すくすくリニューアル

わが家のアイドル

対象 ●就学前の町内のお子さん
●ご家庭で飼育しているペット（新規！）
応募方法 電子申請、郵送、窓口持参のいずれかで必要事項を記入し写真を添えて応募

掲載された方には**特製カード**をプレゼント！皆さんのステキな1枚をお待ちしています！

よこやま みなと
横山 湊飛ちゃん
令和5年11月17日生

三角巾して
離乳食たくさん
食べるぞ



うえの アンジ
上野 アンジくん
令和4年6月6日生

アメリカン
コッカー
スパニエルの
アンくん



詳しくは
こちら▼



QRコードから
簡単応募！▼



UD FONT
by MORISAWA

読みやすい書体であるユニバーサルデザイン
(UDフォント)を使用しています。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE